

# 花葉会が千葉大学に八重桜の苗木を寄贈した経緯

花葉会会長

安藤敏夫

千葉大学環境健康フィールド科学教育研究センター（千葉県柏市柏の葉6-2-1）が計画した「柏の葉八重桜並木」の整備を支援するために、花葉会は109品種169本の八重桜の苗木を寄贈したが、ここにその経緯を書きとめ、花葉会会員の善意に応えたいと思う。そのためには、少し長くなるが、平成15年前後の園芸学部の激動期の話から始めなければならない。

環境健康フィールド科学教育研究センター（現在は環境健康フィールド科学センター、以下センター）は、園芸学部附属農場を転換して平成15年4月に開設した学内共同利用施設である。農業が米麦など「国民のエネルギー源」を賄うのに対して、園芸は果物・野菜・草花という「国民の体と心の健康源」を賄う産業である。このように、もとより園芸は健康産業なのだが、それを植物の専門家だけで担ってきた点に限界がある、と小生は考えてきた。園芸のもつ健康資源（ほ場・産物・作業）を、植物の専門家（園芸学）と人間の専門家（医学・薬学・看護学・教育学）との連携によって科学し、健康という視点から、広い意味での環境を整え、整えられた環境を健康増進に活かすための新たな学術＝環境健康科学を推進するためにセンターは設置されたのである。こうしてこのセンターは、人間の専門家も取り込んだ次世代の園芸を標榜する組織、しかも世界唯一の組織となったのである。これは農学部ではなく、園芸学部であるからこそ成しえたものであり、園芸学部の面目躍如たるものがある。

小生は平成14年4月から平成15年3月まで千葉大学園芸学部附属農場の最後の農場長を務めた。引き続き同年4月から2年間、副センター長を務めた後（センター長は古在豊樹）、平成17年4月から平成19年3月まで第2代のセンター長を務めた。農場長として小生は、センターの開設に先立つ概念形成から概算要求までの全てのプロセスを経験することとなった。当時、助手であった渡辺均と國分尚の不眠不休の活躍なしに

この大事業は成し遂げられなかった。折しも「つくばエクスプレス」が開業（平成17年8月）し、期せずしてセンターは「柏の葉キャンパス」駅から徒歩5分の一等地に立地することとなった。センターと同駅の間には大きな商業施設（ララポート・三井不動産）が誘致され、高層マンション群も林立して、「柏の葉キャンパス」駅周辺は、秋葉原まで20分という、交通至便な新都市に生まれ変わってしまった。そのため、センター内の園芸系教員は、都市に隣接して存在し、都市機能を高める働きも担う新たな園芸＝都市園芸に傾注することとなった。

小生が農場長の時代に、非公式ではあるが柏市から「センターを貫通するバス通り」の設置をお願いできないか、という打診があった。柏の葉キャンパス駅から西に延びる大通りは、センターの正門で行き止まりになっていた（以下、駅前通り）。センターの中央を東西に横断する大通りを設置して、駅前通りを延長することができれば「柏の葉キャンパス」駅へのアクセスは格段に向上するから、行政としては当然の希望である。だがそれは、附属農場の3分の1の敷地を東京大学に奪われることとなった千葉大学には到底容認できない要求であった。行政との不和を恐れる立場として板挟みとなった小生は、ソフトランディングを願ってあれこれ思案を巡らした。その結果誕生したのが「柏の葉八重桜並木」構想である。

センターを東西に横断する道の長さは、八重桜で有名な大阪造幣局の通り抜けより僅かに長い。これに駅前通りを加えて八重桜の並木を整備すれば、日本一の八重桜の並木にできると、柏市や「柏の葉キャンパス」駅周辺を開発する三井不動産に、何回も何回も主張した。繰り返して主張すれば通じるもので、そのうち駅前通りからセンターを横断して西に通じる桜並木の絵が入る都市計画図が散見されるようになり、やがてそれが定着し、日本一の八重桜並木を象徴として、愛さ

花葉会が千葉大学環境健康フィールド科学センターに寄贈した八重桜品種一覧

1	阿岸小菊桜	アギシコギクザクラ	平成21年4月	1
2	東錦	アマニシキ	平成21年4月	1
3	天の川	アマノガワ	平成21年4月	2
4	有明	アリアケ	平成21年4月	1
5	市原虎の尾	イチハラトラノオ	平成21年4月	1
6	一葉	イチヨウ	平成21年4月	1
7	妹背	イモセ	平成21年4月	1
8	雨情枝垂	ウジョウシダレ	平成21年4月	1
9	大南殿	オオナデン	平成21年4月	1
10	思川	オモイガワ	平成21年4月	2
11	関川	カンザン	平成21年4月	2
12	祇王寺祇女桜	ギオウジギジョザクラ	平成21年4月	1
13	麒麟	キリン	平成21年4月	1
14	兼六園菊桜	ケンロクエンキクザクラ	平成21年4月	2
15	紅華	コウカ	平成21年4月	45
16	高台寺	コウダイジ	平成21年4月	1
17	極楽寺桜	ゴクラクジザクラ	平成21年4月	1
18	御座の間匂	ゴザノマニオイ	平成21年4月	1
19	五所桜	ゴショザクラ	平成21年4月	1
20	胡蝶	コチョウ	平成21年4月	1
21	笹賀鴛鴦桜	ササガオシドリザクラ	平成21年4月	1
22	里原	サトハラ	平成21年4月	1
23	塩釜桜	シオガマザクラ	平成21年4月	1
24	朱雀	シュジャク	平成21年4月	1
25	松月	ショウゲツ	平成21年4月	2
26	上匂	ジョウニオイ	平成21年4月	1
27	白妙	シロタエ	平成21年4月	2
28	白普賢	シロフゲン	平成21年4月	1
29	水晶	スイショウ	平成21年4月	1
30	千里香	センリコウ	平成21年4月	1
31	手弱女	タオヤメ	平成21年4月	2
32	奈良の八重桜	ナラノヤエザクラ	平成21年4月	1
33	梅護寺数珠掛桜	バイゴジユスカケザクラ	平成21年4月	1
34	花笠	ハナガサ	平成21年4月	2
35	日吉桜	ヒヨシザクラ	平成21年4月	1
36	鶴桜	ヒヨドリザクラ	平成21年4月	1
37	弘前三段咲	ヒロサキサンダンザキ	平成21年4月	1
38	福祿寿	フクロクジュ	平成21年4月	2
39	普賢象	フゲンゾウ	平成21年4月	2
40	紅笠	ベニガサ	平成21年4月	2
41	紅時雨	ベニシグレ	平成21年4月	2
42	紅豊	ベニユタカ	平成21年4月	1
43	ホクサイ	ホクサイ	平成21年4月	1
44	増山	マスマヤマ	平成21年4月	1
45	松前愛染	マツマエアイゼン	平成21年4月	1
46	松前薄重染井	マツマエウスガサネソメイ	平成21年4月	1
47	松前白牡丹	マツマエシロボタン	平成21年4月	1
48	御車返し	ミクルマガエシ	平成21年4月	2
49	八重紅大島	ヤエベニオオシマ	平成21年4月	2
50	八重紫桜	ヤエムラサキザクラ	平成21年4月	1
51	楊貴妃	ヨウキヒ	平成21年4月	2
52	蘭蘭	ランラン	平成21年4月	2
53	雨宿	アマヤドリ	平成22年4月	1
54	新珠	アラタマ	平成22年4月	1
55	早晩山	イツカヤマ	平成22年4月	1

56	系括	イトククリ	平成22年4月	1
57	伊予薄墨	イヨウスズミ	平成22年4月	1
58	鬱金	ウコン	平成22年4月	1
59	渦桜	ウズザクラ	平成22年4月	1
60	永源寺	エイゲンジ	平成22年4月	1
61	江戸	エド	平成22年4月	1
62	大沢桜	オオサワザクラ	平成22年4月	1
63	大提灯	オオチョウチン	平成22年4月	1
64	大村桜	オオムラザクラ	平成22年4月	1
65	御室有明	オムロアリアケ	平成22年4月	1
66	鎌足桜	カマタリザクラ	平成22年4月	1
67	菊桜	キクザクラ	平成22年4月	1
68	衣笠	キヌガサ	平成22年4月	1
69	気多の白菊桜	ケタノシロキクザクラ	平成22年4月	1
70	兼六園熊谷	ケンロクエンクマガイ	平成22年4月	1
71	御信桜	ゴシンザクラ	平成22年4月	1
72	琴平	コトヒラ	平成22年4月	1
73	木の花桜	コノハナザクラ	平成22年4月	1
74	笹部桜	ササベザクラ	平成22年4月	1
75	須磨浦普賢象	スマウラフゲンゾウ	平成22年4月	1
76	善正寺菊桜	ゼンショウジクザクラ	平成22年4月	1
77	仙台吉野	センダイヨシノ	平成22年4月	1
78	園里黄桜	ソノサトキザクラ	平成22年4月	1
79	泰山府君	タイザンフクン	平成22年4月	1
80	千原桜	チハラザクラ	平成22年4月	1
81	長州緋桜	チョウシュウヒザクラ	平成22年4月	1
82	突羽根	ツクバネ	平成22年4月	1
83	手毬	テマリ	平成22年4月	1
84	東京桜	トウキョウザクラ	平成22年4月	1
85	名島桜	ナジマザクラ	平成22年4月	1
86	二度桜	ニドザクラ	平成22年4月	1
87	白山旗桜	ハクサンハタザクラ	平成22年4月	1
88	萬里香	バンリコウ	平成22年4月	1
89	火打谷菊桜	ヒウチダニクザクラ	平成22年4月	1
90	ピンクパーフェクション	ピンクパーフェクション	平成22年4月	1
91	房桜	フサザクラ	平成22年4月	1
92	紅玉錦	ベニタマニシキ	平成22年4月	1
93	紅手毬	ベニテマリ	平成22年4月	1
94	箒桜	ホウキザクラ	平成22年4月	1
95	宝珠桜	ホウシュザクラ	平成22年4月	1
96	松前紅陽	マツマエヨウコウ	平成22年4月	1
97	松前花都	マツマエハナミヤコ	平成22年4月	1
98	松前紅珠恵	マツマエベニタマエ	平成22年4月	1
99	松前紅紫	マツマエベニムラサキ	平成22年4月	1
100	松前八重寿	マツマエヤエコトブキ	平成22年4月	1
101	三ヶ日桜	ミッカビザクラ	平成22年4月	1
102	八重紅虎の尾	ヤエベニトラノオ	平成22年4月	1
103	八重深山桜	ヤエミヤマザクラ	平成22年4月	1
104	御衣黄	ギョイコウ	平成22年4月	1
105	作並菊桜	サクナミキクザクラ	平成22年4月	1
106	松前	マツマエ	平成22年4月	1
107	来迎寺菊桜	ライコウジクザクラ	平成22年4月	1
108	静桜	シズカザクラ	平成22年11月	1
109	松前薄紅九重	マツマエウスベニコノエ	平成22年11月	1

合計 169 本

れる街づくりを進めることで地域の合意が形成されるようになっていった。それとともにセンター内にバス通りを通す構想は消え去り、柏市も八重桜並木の設置に積極的となってきて、小生の当初の目論見は達成されることとなった。

センター内の議決を経て、平成18年3月18日にセンターの事業企画書「柏の葉八重桜並木（仮称）の設置」を大学事務局に提出した。学内八重桜並木設置委員会の設置を経て、平成18年4月28日、千葉県、柏市、三井不動産、地域住民などの参画を願って「第一回柏の葉八重桜並木設置協議会」（以下、協議会）を開催し、小生はその会長を拝名することとなった。副会長に任命された千葉県県土整備部の斎藤威主幹は、それ以降、この計画の実施に欠かせないキーパーソンとして活躍することとなった。桜の専門家として財団法人日本花の会の田中秀明氏にも参画を願った。

当時、駅前通りにはカエデ類の並木を設置する実施計画があったが、第2回協議会（平成18年5月18日）では、これを八重桜の並木に変更して貰いたい旨の要望をとりまとめた。幸いこの要望が受け入れられて、その冬には駅前通りの南側＝ララポート側に「関山」と「一葉」の立派な八重桜並木が誕生し、平成19年4月21・22日には、ささやかながら協議会主催の「第1回柏の葉・里さくらまつり」を開催する運びとなった。専門的には「里桜」はサトザクラと発音するが、協議会では「里さくら」と濁らずに発音する約束とした。

「第2回柏の葉・里さくらまつり」（平成20年4月19・20日）を経ても、センター内に八重桜並木は整備できなかった。センター正門から西に延びる道を拡幅して「グリーンフィールド」とし、その両脇に八重桜並木を設置する計画としたが、グリーンフィールドには果樹園の一部が含まれることもあって、平成22年秋に至ってもまだ基盤整備は終わっていない。大学財政に余裕のないことも大いに影響している。

平成20年度第7回花葉会幹事会（平成21年1月24日）に於いて、センターに於ける八重桜並木の整備を支援する目的で、必要本数の八重桜の苗木を購入・寄

贈するための資金の拠出を願い出たところ、必要満額を花葉会基金から出動することで幹事一同の賛同が得られた。千葉大学園芸学部創立100周年を迎えようとしている折、100周年を祝する100品種の八重桜の確保がこうしてできたのである。

「第3回柏の葉・里さくらまつり」（平成21年4月18・19日）の当日、センターのシーズホールに於いて、メディアを含んだ市民の前で、花葉会と柏の葉八重桜並木整備協議会（改名）の連名で小生から、表に記した最初の52品種112本の八重桜苗木をセンターに寄贈することができた（センター長は高垣美智子）。なお植栽効果を高めるために「紅華」の本数を増やしてある。財団法人日本花の会から購入したこれらの苗木は、平成22年10月現在でもほ場に借り植えされている。

残りの品種は日本花の会への注文生産とし、生産された新たな55品種55本は「第4回柏の葉・里さくらまつり」（平成22年4月17・18日）の席上で同様にセンターに寄贈された（センター長は高垣美智子）。こうして花葉会の基金から捻出された資金をもとに、ともに小生が会長を拝名する花葉会と「柏の葉八重桜並木整備協議会」から、センターに合計107品種、167本の八重桜の苗木が寄贈されたのである。これを契機に小生は「柏の葉八重桜並木整備協議会」の会長を辞し、次の会長として高垣美智子センター長が就任した。なお、繁殖できなかった2品種2本は平成22年11月に追加寄贈される予定である。

平成21年10月29日には千葉大学園芸学部創立100周年記念式典が執り行われたが、柏の葉地区に馴染みのない先輩が多いこともあって、センターの八重桜並木の整備が記念事業に取り込まれることはなかった。したがって、センターの八重桜並木の整備に必要な八重桜の苗木は、現在に至るまで全て花葉会会員が蓄えた浄財によってのみ賄われているという事実を明らかにし、それが千葉大学園芸学部の100周年を祝う花葉会会員の心であり、いずれ花葉会の誇りとなるであろうことを記して、花葉会会員一同に深く感謝の意を表するものである。